

第 56 回コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2019. 1. 18

山崎梨沙香

『エイベリス点眼液 0.002%』

参天製薬株式会社 吉田延弘さん

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：原田由美子先生、眼科職員さん、熊山ともみ、相原美穂、味田村俊次、田村さやか、山崎梨沙香

エイベリス点眼液 0.002%は日本発、世界初の緑内障治療薬。既存の緑内障治療薬とは異なり、EP2 受容体に選択的に結合することで、ぶどう強膜流出路及び線維柱帯流出路の両経路を介した房水流出を促進し、眼圧低下効果を示すと考えられている新しい機序の薬剤であり、緑内障治療の選択肢の1つとして期待される。

【効能又は効果】

緑内障、高眼圧症

【用法及び用量】

1回1滴、1日1回点眼

【禁忌】

- 過敏症の既往がある患者
- 無水晶体眼又は眼内レンズ挿入眼の患者
- タフルプロストを投与中の患者

【相互作用】

併用禁忌

タフルプロスト（タプロス点眼液、タプロコム配合点眼液）

中等度以上の羞明、虹彩炎等の眼炎症が高頻度に認められている。

併用注意

タフルプロストを除く緑内障・高眼圧症治療薬（チモロールマレイン酸塩等）

チモロールマレイン酸塩との併用例で結膜充血等の眼炎症性副作用の発現頻度の上昇が認められた。他の薬剤との併用経験はない。

【副作用】

結膜充血、角膜肥厚、虹彩炎、眼痛、羞明、眼の不快感(刺激感等)、角膜上皮障害

【特徴】

- 世界初の選択的EP2受容体作動薬
- ラタノプロスト点眼液0.005%に対する眼圧下降効果の非劣性が認められた
- 他剤無効例の開放隅角緑内障および高眼圧症を対象とした臨床試験において、エイベリス点眼液の投与により有意な眼圧下降が認められた
- 既存のPG系緑内障治療薬の代表的な副作用である睫毛多毛・上眼瞼溝深化の報告が無くQOL低下を招きにくい
- ベンザルコニウム塩化物が添加されているため、1Dayコンタクトレンズに変更するか、点眼前に外して15分以上経過後に再装着する必要がある
- 冷所で保存が必要な薬剤であるが、開封後1ヶ月は室温で保存が可能

【考察】

PG系緑内障治療薬使用による睫毛多毛・上眼瞼溝深化に悩んでいる患者様や、今までの治療薬で降圧効果が効果不十分な場合の緑内障治療の選択肢の1つとして期待される。

また、充血は点眼後1hをピークとし、約4h後には軽減してくることから、夜に点眼すると患者様のQOL低下を招きにくいと考えられる。新規使用開始から1~2ヶ月は充血しやすいため、投薬時に予め伝えておくと患者様が不安を抱かずに使用を継続することができるだろう。

【質疑応答】

Q1. 1本で何日分くらい？

A. 毎日両目に1滴使用して約25日分(1滴あたり約0.05ml)。実際は2.5mlより少し多めに入っている。

Q2. 線維柱帯流出路とぶどう膜強膜流出路の房水流出促進の割合は？

A. 詳細の割合のデータは取っていないが、一般的に主経路が線維柱帯流出路、副経路がぶどう膜強膜流出路と言われている。

Q3. 新薬期間中の処方は何本まで？

A. 2本(2w分)までの処方制限あり

Q4. タフルプロスト以外のPG系も禁忌？

A. 禁忌には記載していないが作用機序上他のPG系緑内障治療薬との併用でも同等の副作用が起こる懸念があるため併用はしない。(併用は保険上通らない可能性もある)